



第188号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長
 宮崎達夫
 編集人 会報編集委員長
 市川武彦
 印刷所 須坂新聞社

谷川先生と生徒たちのチャレンジメニュー

相森中学校 片岡 和雄
 大月 史子

筑波大学の谷川彰英先生が、私たち二年三組で公開授業をされることに決まったのは、五月上旬のことでした。「大学の先生の授業を受けてみたい!」と生徒たち自ら名乗りを挙げたのです。普段の授業では、積極的に発言する姿があまり見られない生徒たちが立候補したということに驚きました。その前向きな姿勢に感心し、大変頼もしく感じました。

初顔合わせで谷川先生は、生徒の自己PRカードを片手に一人ひとりと話され、『県歌信濃の国』を題材に授業を進めることを説明されました。そして、歌詞の一番から六番までを各班に分担し、七月十五日の公開授業までに調べて発表するように、と宿題を出

されたのです。先生が強調されたのは、「調べ方も発表の仕方自由」ということ。当日までの一週間ですべてできるのかという担任の不安はよそに、それからの生徒たちは素晴らしい頑張りを見せました。図書館の本やインターネットを使って歌詞の意味を調べ、そこから関連する事象や物語に焦点を絞って作業を進めました。自分たちに合った発表の仕方を工夫し、リハサルまで行っていました。そして公開授業当日は、どの班も一人一役で、全員の声を聞くことができる発表となりました。彼らがここまで熱中して取り組めたのは、『信濃の国』を調べるうちに、郷土のことを知る喜びが沸き起こってきたからではないかと思

ます。一方、谷川先生は自ら現地調査に行かれ、持ち帰った写真や実物を示して、生徒たちの発表をさらに広げて下さったのです。また、「指導案」ではなく「チャレンジメニュー」という名称で生徒にも授業作りに関わらせたことは、とても新鮮な試みでした。谷川先生の授業を通して新しい生徒の姿を発見することができました。身近なものを教材にすること、また調査方法や発表形式を指定しないことが、生徒の自主性や発想を引き出すことに繋がるということ。そして、教師自らも研修し、生徒の活動の手助けとなること等、多くを学ばせていただきました。これからの総合的な学習に、大きなヒントを得た授業でした。

本校の中核活動

公開参加、ふれあいの日

森上小学校

多くの学校がそうであるように、森上小学校でも「ひまわりっ子ファミリー事業」の指定校となったことを機会に保護者の皆さんや地域の方々や子ども達がふれあう活動を続けてきています。「公開参観・ふれあいの日」と呼び、授業を公開し、どの学級の授業も自由に参観し、さらに地域の皆さんとふれあう時間を設定しています。



今年度は、朝の学級活動から休み時間を含めて昼食の前までの全てを公開しました。保護者の皆さんは自分の子どもたちの学習の姿を参観するというだけではなく、1・5・6年の学習内容一覧表を見て、自分の興味の持った教室に訪問して、子ども達と共に学んでいるという姿もありました。

地域の方々への案内は区長さんを通じて行っています。この日は、子ども達の昼食の間にPTAバザーが行われ、参観に引き続いてそこに参加された地域の方がたくさんありました。そして午後はふれあいの時間となっています。地域の方々や保護者の皆さんに講師になっていただいて17のコーナーを設けました。講師のお手伝いや子ども達に個別指導が必要なコーナーでは、PTA役員の皆さん

がために、英会話を教えている外国人の方、手話通訳のボランティア活動をやっておられる方、栄養士の方々等に講師をお願いしました。自分が進んでいる道に対する誇りや情熱を子ども達に伝えていただきたと考えています。

さらに、ゲートボールや折り紙等を趣味として取り組んでいる方々にも講師をお願いしました。今、その必要性が強く言われる生涯学習の一端に子ども達が触れられたのではないかと考えます。

地域に開かれた学校づくりの実践はなかなか難しいものがありますが、本校では「公開参観・ふれあいの日」の実践が土台となってさらに進められていくのではないかと考えられます。また、生涯学習の視点、学校連携の視点をもつてこれからの学校教育のあり方を探る材料にもなっているはずだとも思われます。(花形敏郎)

教育会だより

- 10・20～21 日連教長野大会(本会より41名参加)
- 10・26 第4回研究小委員会
- 10・29 郡科学作品展(於シルキー3階)
- 10・31 信濃教育会全県研究大会(於栗が丘小学校小布施中学校)
- 11・11 第14回あゆみ展・市学芸展(於シルキー3階)
- 11・17 研究日 谷川彰英先生
- 11・22 社会科研究会委員会指導(於相森中学校)
- 12・2 教育会中間会計監査
- 12・2 研究発表会(於教育会館)
- 12・4 第6回常任委員会
- 12・5 第5回研究小委員会
- 12・7 第6回代議員会
- 12・15 上高井教育会報第188号発行

教育課程研究協議会を終えて

祝勝会をやるう

武内 洋

教育課程、特活の授業で「祝勝会をやるう」という企画を生徒と考えました。

なぜ祝勝会と思われる方も多いはず。それは、9月29、30日に行われた常盤祭で私の受け持っている1年2組の生徒たちが素晴らしい活躍をしたからです。音楽会では学年で2位にあたる銀賞を。校友会の企画行事で全校2位。そして体育会優勝と各賞を総なめにしました。特に体育会優勝は2、3年生をおさえての優勝で、快挙ということでした。そのお祝いをしようじゃないかと生徒たちとの雑談の中から生まれたのが今回の研究授業のテーマになりました。

①入学当初から、男女間の仲が良く大変さわやかな印象を持つ生徒たちが多く毎日楽しく生活してきました。しかし、やはり37人の生徒がいれば色々な人間関係で問題が起ってきます。特にAさん、Bさん2人の女子の関係がきこえないものでした。2学期始めBさんが登校をしぶり、理由を聞いてみるとやはり、Aさんとの関係に悩んでいたそうです。Aさんはクラスの女子のリーダー的存在でもあり、Bさんは疎外され始めました。クラスでも問題にし、淋しうにしている人はいないか、いたらどうするか話し合いました。そして、この研究授業を通して関係の改善を考えました。

②2学期スタート時より不登校の生徒が出ました。原因は色々あるようですが、クラスには何で学校に来ないのか詳しく説明していません。友人達も「早く学校においでよ」と声かけもしてくれず。ある日、「どうすればC君が学校に来てくれるのかな」と私何気なくつぶやいたとき、一人の生徒が「C君が喜びそうなことを考えれば来るかもしれない」と話してくれました。今回の祝勝会にはC君に学校への登校意欲をもってほしいという願いもあります。③Dさんは、体調の関係で体育会の練習は声かけなどの参加でした。クラス全員が楽しめるものという事で、このDさんも参加できるものと考えました。

そして研究授業。これらの問題のうち②、③に対しての予想をはかるに上回る発言が生徒から出されました。自画自賛になりますが大変素晴らしい生徒たちでした。①について、11月14日に生徒たちが企画した「祝勝会」が行われます。(常盤中)

確かな力をつける授業構築

黒岩 和男

さる10月31日、平成12年信教全県研究大会(東北信B)が小布施中学校で開催されました。大会研究テーマ「自己教育力の育成」―自ら問いかけみかえしつつ自力をつける営みにしていく学習指導―を受け、本校では「学ぶ喜びを見だし、確かな力をつける授業の構築」を研究テーマに、主体的に学ぶ力を育てる学習指導のあり方を探ってきました。今回公開した国語

科、保健体育科、道徳を重点教科にし、この四月から3グループに分かれ、研究を進めました。国語科では、単元「小布施町の詩から学ぶ」を設定し、地域に関わる素材の教材化に取り組んできました。

保健体育科では、単元「器械運動(マット運動、跳び箱運動)」で、器械運動の特性を吟味するとともに、個のつまづきに対する支援のあり方とグループ学習による学びの姿を促す学習展開に視点を当てて進めました。

道徳では、思いやりの心を育て、実践に移そうとする態度を育成することに力点を置き、生徒の学びの心を動かす自作資料の教材化を中心に研究を積み重ねました。

生き生きと取り組む授業

栗田 哲之

去る10月31日に、信濃教育会全県研究大会が本校で行われ、百七十余名の参加者が集い、盛況のうちに無事終了しました。

本校の全校研究テーマは、「一人ひとりが課題を持ち、生き生きと取り組む授業のあり方」と設定し、特に、課題把握と粘り強い追究について研究を重ねてきました。算数、家庭科、総合的な学習の三つの授業を通し、本校の研究や実践が問われる良い機会となりました。



算数では、算数的な活動を取り入れた学習を中心として研究を進めてきました。本時では、三年生の重さ調べの単元の中の「グラム作りを行い、一人ひとりに簡易上皿天秤を用意しました。いろいろな材料で、切ったりたたいたりしながら、一生懸命追究できました。家庭科では生活体験を生かした学習のあり方について研究を進めてきました。本時では、六年生のじゃがいもの調理実習でした。特別に60分の授業時間で、一人ひとりの願いを実現させるために、火の通し方や味付けなどの工夫を追究できました。

総合的な学習では、地域教材の発掘とともに、自らの創造的な活動を中心に研究を進めてきました。本時では、四年生の色刷り版画で、我が町の自慢を一人ひとりが製作しました。外部講師のお話を聞いたたりして、自分の願いの現に向けて、一生懸命追究できました。

授業研究会では、参観された先生方より、個に即した貴重な意見が出され、今後の研究に対して、多くの示唆をいただきました。

最後に、本大会のためにご尽力いただきました信濃教育会研究調査部の先生方、ならびに指導主事の先生方に心より感謝申し上げます。

総合的な学習

各校の取り組み

個の生きる力を育む

「総合的な学習」研究グループ

試行錯誤で始めた総合的な学習も二年目を迎えた。

手探りながら大きな一歩を踏み出した昨年。子ども達の発想、発見を大切にしたい学習展開、体験的な学習を通して、以前より主体的に学習にとりくむ子ども達の姿が見られるようになった。

その成果を受け、今年度は個が主体的に学ぶ姿勢や学び方、考え方を学ぶ力と、友との支え合いや地域の方等との関わりの中で、育てていこうと実践を重ねてきている。

例えば、六年生では「健康」という年間テーマを設定し様々な活動を展開している。

二期に始まった学習「オリンピック・パラリンピックから学ぼう」では、個々の情報収集のみではなく友達同志で情報交換させたことにより、調査活動の幅が広がった。また、その結果を発表する場を設けたことにより、友達の学びの姿にふれ、相手を意識した伝え方を考えさせる機会になった。

調査活動を終えた子どもたちは、「自分から何かを調べたくなった」「調べるのがどんどん楽しくなった」等の自己評価をし、次への学習意欲を高めることができた。つづくパラリンピックに関

する学習では、「どんな障害があるのか」「いろいろな障害があってもたくさん人のパラリンピックに出ていることがすごい」「目が見えなくても水泳ができるんだなあ」「足が不自由なのにバレーができるなんて、どうやるんだろ」などの疑問や感想をもち、それぞれの活動に入った。

そしてボッチャやゴールゲームなど四つの競技についてお互いに紹介しあい体験してみようということになった。体験的な活動を通して個々の考えや思いが深まり、テーマ「健康」に関わって学習が展開していくと思われる。

子ども一人一人が求め、自身で解決していく力を育てるために、教師はどんな支援ができるのか、更に研究は続く。(豊洲小)

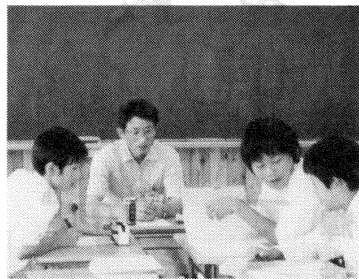
地域に学び奉仕する

AZUMA TIME

荒井 智

我校では本年度から、自分の生まれ育った郷土「東」の自然や歴史文化などを学ぶことにより、地域に対する理解と愛着を深め、地域に奉仕する精神を養うをテーマに、総合的な学習の時間「AZUMA TIME」が創設された。

個人の地域に関わる課題を出発に、全校クラス単位でグループに分かれて、地



調査活動を進めました。おやきなどの郷土料理に、地域の川のホタルに、養蚕・畜産など昔ながらの産業に、大笹街道など地域の歴史にと、目の向けどころは様々です。

そして七月には、この学習の一環として、地域の人たちを講師に招いて学習する「AZUMA TIME 地域講座」を開いた。そば打ち、昔話を聞くなど十四講座を開き、生徒たちはそれぞれ興味のある講座を受講した。地域の協力を得ながら進める総合学習を保護

本校の宝③

豊かな自然

豊丘小学校

「アルプスがきれいでですね」本校においでになったお客様はみんなそうおっしゃる。初冬、朝日をあびてそそり立つアルプスは本当に見事だ。本校の標高は五九〇メートル、本郡では一番高い。北アルプスが一望の下に見渡せる。校庭に面した通路には、アルプスのレリーフがある。PTAの資源回収で得た利益で作ったものだ。表面にアルプスのスケッチと校歌一番の歌詞『あれはアルプスここに学びここに育つ』が刻まれ、下に「：あのアルプスを眺め、ここに学びここに育つことに幸せを感じ心をやし懐かしい思い出を語る日もあることでしょう」と文が書かれている。



中庭には大きな花壇がある。新校舎になる前、花壇作りに力を入れていた。昭和五十三年に花壇コンクールに初参加して奨励賞、五十四年には優良賞を受賞。その後、三年連続して優秀賞で中央審査に臨み、五十五年長野放送賞、五十六年県教育委員会賞、五十七年日本植物園協会賞と大きな賞をいただいた。しかし、翌年から校舎改築となり、それ以来花壇コンクールへの挑戦は途絶えている。平成五年、PTA環境整備作業によって再び整備していただいたのが今の花壇である。今年も環境委員が苗を植えて世話をし、きれいな花を咲かせた。花壇コンクールには参加しないけれど花でいっぱい学校にしたいという願いは、現在も引き継がれている。

中庭の東端に築山と観察池がある。これは、校舎改築記念事業で整備していただいたものである。松やイチイ等の木々と大きな石が配置され、散策道が通っている。観察池には、近くの用水路から引かれた水が築山の途中からせせらぎを作って流れ込んでおりほとりにたたずむと心が休まる場所である。

これらを見ていると先輩諸氏と地域の方々の「豊かな自然環境を生かして豊かな心の子にしたい」というお心が感じられる。何よりの宝は教育に寄せるその熱い思いと言えぬのではないか。

私たちもその思いを引き継いで、一層自然環境を生かし豊かな心の子の育成に邁進せねばと思う。

(松沢美智子)

火ばら 談義



豊丘小 宮崎玲子

ニガウリを使って

返町輝雄

最近スーパーマーケットなどにキュウリに似た野菜で表面がたくさんの突起で覆われているものを見かける。これが沖縄ではよく食べられていた野菜の一つ、ニガウリである。

別名れいしとかゴーヤと言われ、これを使ったゴーヤチャップルは豆腐とニガウリの油炒めで、沖縄料理として広く知られてきた。

たまたま三年前の春、某社の種苗カタログに、ニガウリ(さつま大長れいし)が紹介されているのを見た。独特の苦味があり表面はコブ状の突起におおわれ、太さ五センチ、長さ三十五センチ位になる。ビタミンCが豊富とされ、夏バテ防止の素材で肉類との油炒め、酢の物、ジュースなどによく用いられると記されていた。

沖縄特産で高温性のニガウリが、ここ高山でもできるのかと心配しながらも栽培に挑戦してみた。早速種苗会社の通信販売で取り寄せ、五月の

連休明けにニガウリの種を蒔いた。沖縄の亜熱帯気候に比べて、高山の露地栽培ではやはり夜半は厳しい。遅ればせながら何本か芽がでたので、学級前の花壇にひょうたんとともに定植した。七月頃から

八月にかけてつるの網棚にニガウリの葉が生い茂った。ニガウリ独特の匂いが教室に漂い、可憐な黄の花が咲いて蜂が何匹となく舞っていた。

ニガウリの世話をしながらか、八月末に初物の収穫と相成った。取り入れ早々、学校図書館の日本の郷土料理という食べ物図鑑のレシピでゴーヤチャップルを作り、胸を躍らせながら食べてみた。

最初は、正直苦味だけが残ってそれほど美味いものとは思わなかったが、二三度口にしてからこの苦さの虜になってしまった。暑い時のビールの特効薬としてはいける。ニガウリを召されてない先生方、一度ニガウリ料理(ゴーヤチャップル等)お試しあれ。

(高山小)

そばづくりに思う

中城裕子

今年度、私の受けもっている3学年では、公民館や園芸クラブのお年寄りなど地域の方々に協力頂き、墨坂中や園芸高校の生徒さんとも交流しながら、「そばづくり」を学習している。私自身は、今までそば屋に行っても、メニューにうどんがあればうどんを注文することのほうが多かった程度だが、私も子どもたちも学習が進むにつれ、そばについての関心が高くなってきて

いる。特に子どもたちは、そばという植物に初めてふれる子が多く、白い花がいっぱい咲いていてびっくりしたとか、そばの実が三角形の形をしていて石と間違えそうになってしまったなど、強く印象に残ったようだった。私も、自分たちでまいたそばが畑一面に白い花を咲かせているのを見て、子どもたちと同じように感激した。

花の下に緑色に目立たなく

ついていた実が、黒いそばの実らしくなるところで刈り取り、脱穀を行ったが、刈り取って乾かしたそばを段ボールに挟んで棒でたたきという脱穀のやり方には、子どもたちも私も驚いた。そばを挟んだ段ボールを、まるでストレス解消のような勢いでたたきつぶれたりしないのだろうかと思う。そばの実が、そばの実はかたいから。」と園芸クラブの方が教えて下さった。見ると、実はつぶれずに結構よく取れている。なるほどこうやって脱穀するのかと感心してしまった。そばについて

どう生きるか

松本 久

私は県外の愛知県出身です。先祖代々から愛知県知多半島にいます。そんな私が信州大文学部へ行くことになったんです。

長野県の方からするとすごく変な話ですが、自分の進学大学の決定は、高校3年の12月。それまでは他大学を考えていました。信州大学にしたのは、高校の担任から強力に「おまえの希望する大学は、合格するのに難しいから、信州大学にしろ。」と言われたからです。だから、大学の2年生までは長野県がイヤでイヤでたまらなかったんです。大学

を辞めるほど勇気もなかったし。ところが、山好きの友人に誘われるがまま、休みの日は手足を4WDにして、山菜やキノコを採ったり(もちろんその後みなで食べる!)スケート・スキーを覚えていくうちに、そんな信州が大好きになってしまったんです。

自分が信州が好きだと気づいたのがもう大学3年の時。結局24才まで大学にいました。が、愛知県のある企業に就職。こもおかしな話ですが、長野県が忘れられず(あんなにイヤだった長野県だったのに！

注..彼女を残してきたわけではない)、会社を辞め、長野県の教員採用試験を受け現在に至るわけです。

勤めていた企業は有名な大企業で給料もよかったので、親兄弟の反対はすごかったです。さらに、教員採用試験を受ける前に会社を辞める(私としては背水の陣をしいたつもり)などという暴挙をしたため、親戚からもひどく言われたものです。

教師をしていて嫌なことがあったとき、新天地で頑張れと笑顔で送り出してくれた会社、わがままを許してくれた親兄弟親戚、自分の11年前のあの決意を思いおこします。自分が決めたんだもの。自分に負けるなど。器用でない自分の生き方です。(墨坂中)

各地から雪の便りが届くようになり、二〇〇〇年も残りわずかとなりました。もうすぐ二十一世紀です。

編集後記



総合的な学習の成果などを中心に編集させていただきました。お忙しい中、原稿依頼を快くお引き受けくださり、貴重な原稿をお寄せくださった先生方、本当にありがとうございます。学期末をむかえ、忙しくなりますが、お体に気をつけてお過ごし下さい。